



ひろ おか とおる
廣岡徹

学校経営コース教授

日本の防災教育は阪神・淡路大震災で大きく変わったといわれますが、昨年の東日本大震災によって見直されている部分はあるのでしょうか。

兵

兵庫県は阪神・淡路大震災の教訓の下、「知／自然災害に対する知識と理解」「技／防災リテラシーの育成」「心／人としての在り方生き方の探求」の三つの領域で取り組む「新たな防災教育」を全国に発信しました。

現在も、基本的にこの考え方で変わらないものの、東日本大震災によってさらなる検証が求められるようになりました。それを整理すると次のようになります。

- ① 最大(最悪)を想定
 - ② 地域(学校)の状況に応じた対策
 - ③ 具体的活動につながる学び
 - ④ 地域と連携した取組
- まず、自分たちの学校の地勢的条件を検証し、最も大きな被害が想定される災害を防災訓練・教育の中心としな



ければなりません。地震ならば岩盤の固さで被害の程度は変わりますし、校舎の耐震性も防災上の大きな要素の一つです。最近の集中豪雨型災害も当然、視野に入れる必要があります。

- ① 想定にとられない
 - ② どんな場合でも最善を尽くす
 - ③ 率先して避難する
- たとえ下校中であっても子

どもの避難行動を子ども自身の意志と判断に委ねるのは、教員にとって勇気のいることです。しかし、防災教育・安全教育の目的は「子どもたちに自分自身の命を守るための能力を身に付けさせる」ことです。すなわち、釜石市の「防災は文化」と考える防災教育こそ、これからの時代に求められているといえます。

自らの命を守ることでできる子どもは、周りの人たちに対して手を差し伸べる力も身に付けられるでしょう。

キャンパストピックス

CAMPUS TOPICS

渥美茂明教授が
兵庫県功労者表彰
理科教育の振興に尽力



渥美茂明教授(認識形成系教育コース[自然系教育分野(理科)])が、平成24年兵庫県功労者(教育功労)に表彰された。この表彰は、県内の教育振興に顕著な実績を挙げ、広く県民の模範となるべき者をたたえるもの。渥美教授は長年、植物生理学の研究と教育に取り組んでおり、特に小学校理科の教材開発、中高生への教育活動、理科教員の研修、分子生物学への理解を推進する教育活動などが評価された。

藤原司教授が
2011年度ジャフィー論文賞
(理論部門)を受賞

藤原司教授(認識形成系教育コース[自然系教育分野(数学)])が論文「指数型加法過程に対する最小エントロピーマルチンゲール測度について」で、日本金融・証券計量・工学会の「2011年度ジャフィー論文賞(理論部門)」を受賞した。同賞は金融資産価値や実際の金融的意思決定に関わる優秀な論文に与えられるもので、藤原教授は「私の論文は純粋に数学的なものですが、数学以外の学会から評価されたのはありがたいことです」と語った。



成瀬敏郎名誉教授が
日本第四紀学会の
学術賞を受賞



成瀬敏郎名誉教授が平成24年度日本第四紀学会学術賞を受賞した。同学会は、地球史における現代(約260万年前～現代)の自然、環境、人類などを研究する目的で昭和31(1956)年に設立。成瀬名誉教授が25年間にわたって取り組んできた研究「風成堆積物の体系的研究と第四紀古気候への貢献」は、同学会と第四紀学の発展に大きく貢献した学術業績と認められた。